

家庭と地域の教育力に関する市民意識調査

～最近の子どもたちをどう思いますか？～

結果報告書

平成 23 年 3 月

新潟市教育委員会 生涯学習課

はじめに

新潟市教育委員会では、本市の教育の方向と在り方を指し示した「新潟市教育ビジョン」に沿った取組を着実に進めるために「後期実施計画（平成 22～26 年度）」を策定し、「生涯を通じて学び育つ活動を支援し、家庭・地域の教育力を高める」ことを重点的な取組のうちの 1 つとしています。

家庭教育はすべての教育の原点であり、親やその保護者が子どもに対して基本的な生活習慣を身につけさせ、自立心・自主性を育成し、他人に対する思いやりの心や命を大切にする気持ち、倫理感などを育み、健康な体力をつけるなど、心身の調和のとれた発達を図るうえで、きわめて重要な役割を果たします。しかし、近年、少子高齢化や核家族化による家族形態の変化や、価値観の多様化により子どもや家庭を取り巻く環境は厳しく、家庭の教育力の低下や子育ての状況の困難さなどが社会問題化しています。

家庭教育支援のための地域社会全体での取組が必要となっておりますが、人間関係の希薄化、地域の連帯感が失われる中で、改めて地域の教育力再生の取組が必要であると考えます。

本報告書は、新潟市における子どもたちの育ちについて、また、それらを育む地域の状況はどのようなものであるか、大人はどのような意識を持ち、子どもたちとどのように接しているか、市民の皆様の意識について調査をおこない結果をまとめたものです。

実施にあたっては、第 29 期新潟市社会教育委員会会議において、調査項目の検討をおこない、各章ごとに委員からの解説を加えていただきました。同会議では、平成 22 年 5 月から「家庭と地域における教育力の向上について」協議を進めていただいております。今後は、新潟市内において企業や地域団体、NPO、大学など社会全般が地域の教育力に果たしている実態と意向の把握につとめ、平成 23 年度中に建議としてまとめていただきたいと考えています。

最後になりましたが、調査にご協力をいただいた数多くの市民の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

新潟市教育委員会 生涯学習課

目次

I. 調査概要.....	1
II. 調査結果.....	9
1. 家庭における教育力について.....	11
(1) 子どもたちが家庭において身につける力として特に大切なこと.....	11
(2) 自身の子ども時代と比べての、今の家庭の教育力.....	12
(3) 低下したと思う理由.....	13
(4) 自身の子ども時代と比べての、今の子育ての状況.....	14
(5) 困難になっていると思う理由.....	15
(6) 家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について.....	16
「1. 家庭における教育力について」の総括.....	17
2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて.....	19
(1) 地域社会において子どもたちが身につける力として特に大切なこと.....	19
(2) 自身の子ども時代に比べての、地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみ.....	20
(3) 低下したと思う理由.....	21
(4) 普段交流する人.....	23
(5) 住民どうしのつながりが深まるために必要なこと.....	26
(6) 地域の子どもたちの様子.....	27
(7) 子どもたちの、おもな遊び場.....	28
(8) 地域の子どもたちとの、普段の接し方.....	29
① 悪いことをしたとき、しかったり注意したりする.....	29
② 良いことをしたとき、ほめる.....	30
③ 危険な行動をみたとき、注意する.....	31
④ 道であったとき、あいさつする.....	32
⑤ 様子が気になったとき、声をかける.....	33
⑥ 困っているとき、相談にのる.....	34
「2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて」の総括.....	35
3. 地域の子どもたちとかかわる活動について.....	37
(1) 最近一年間に参加したことがある活動.....	37
(2) 活動に参加したきっかけ.....	39
(3) 今後の活動参加意向.....	41
(4) 活動に参加したいと思う理由.....	42
(5) 活動に参加したいと思わない理由.....	43
(6) 活動に参加していない理由.....	44
(7) 今後、参加してみたい活動.....	45
(8) 地域全体での子育てのために、力を入れたらよいと思うこと.....	46
「3. 地域の子どもたちとかかわる活動について」の総括.....	47
4. 自由記述(概略).....	49
III. 自由記述.....	51
IV. 全体結果数表.....	61
V. 調査票.....	75

I . 調查概要

1 調査目的

本市の各家庭においておこなわれている子どもへの教育や、地域全体で子どもたちを育てていくことについての意識や要望を把握し、今後の施策を検討するための基礎資料として活用するため本調査を実施する。

2 調査項目

- (1) 家庭における教育力について
- (2) 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようにすについて
- (3) 地域の子どもたちとかかわる活動について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 新潟市全域
- (2) 調査対象 平成22年8月末日現在の住民基本台帳に登載されている20歳以上の市民
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 区の人口によって層化し、住民基本台帳から等間隔抽出
- (5) 調査方法 郵送法（調査票の配布・回収とも）
- (6) 調査期間 平成22年10月25日～11月8日

4 集計結果の数字の見方

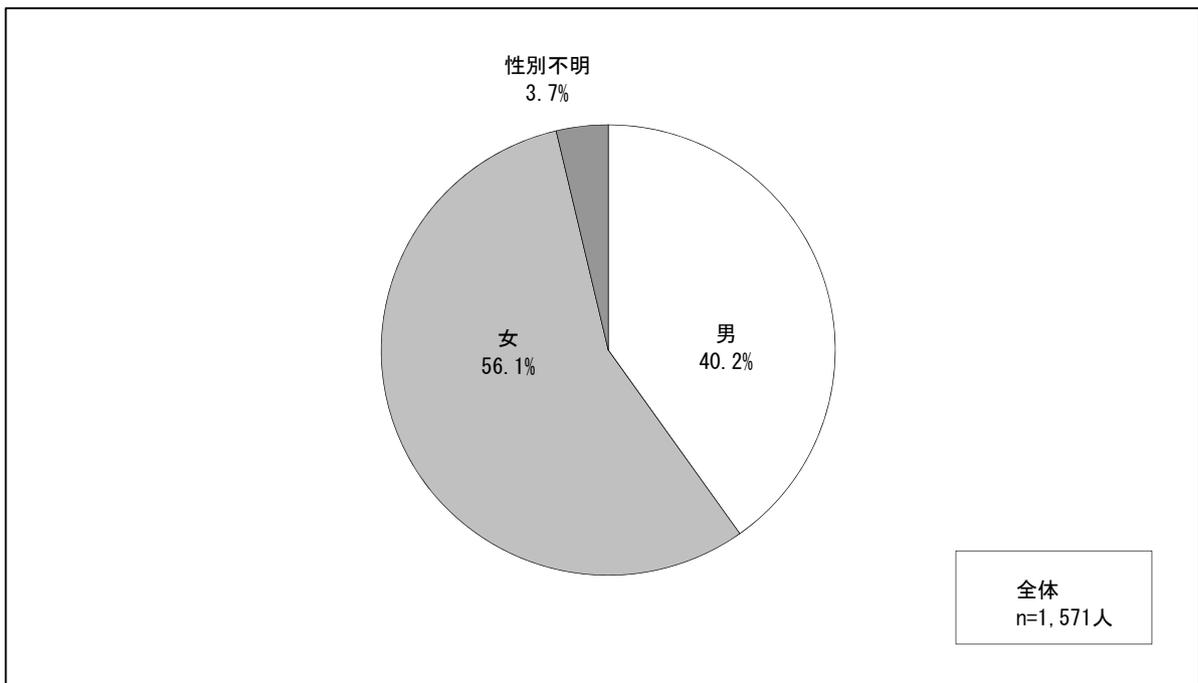
- (1) 結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。
また、複数回答（2つ以上の回答）では、合計が100%を超える場合がある。
 - (2) 図表中の「n」は、質問に対する回答者の総数を示し、回答者の比率（%）を算出するための基数である。
-

5 回収結果

		母集団数	構成比 (%) (母集団)	標本数	有効 回答数	回収率 (%)
市全体		657,407	100	3,000	1,571	52.4
性別	1 男性	312,633	47.6	1,416	631	44.6
	2 女性	344,774	52.4	1,584	882	55.7
	3 性別無回答				58	
年代	1 20~29歳	86,934	13.2	433	134	30.9
	2 30~39歳	113,795	17.3	541	265	49.0
	3 40~49歳	102,087	15.5	411	224	54.5
	4 50~59歳	109,416	16.6	499	284	56.9
	5 60~69歳	111,888	17.0	488	316	64.8
	6 70歳以上	133,287	20.3	628	284	45.2
	7 年代無回答				64	
地区	1 北区	62,765	9.5	290	139	47.9
	2 東区	113,062	17.2	518	244	47.1
	3 中央区	143,578	21.8	646	330	51.1
	4 江南区	56,357	8.6	259	135	52.1
	5 秋葉区	64,326	9.8	294	133	45.2
	6 南区	38,564	5.9	177	93	52.5
	7 西区	127,837	19.4	584	310	53.1
	8 西蒲区	50,918	7.7	232	130	56.0
居住地区無回答					57	

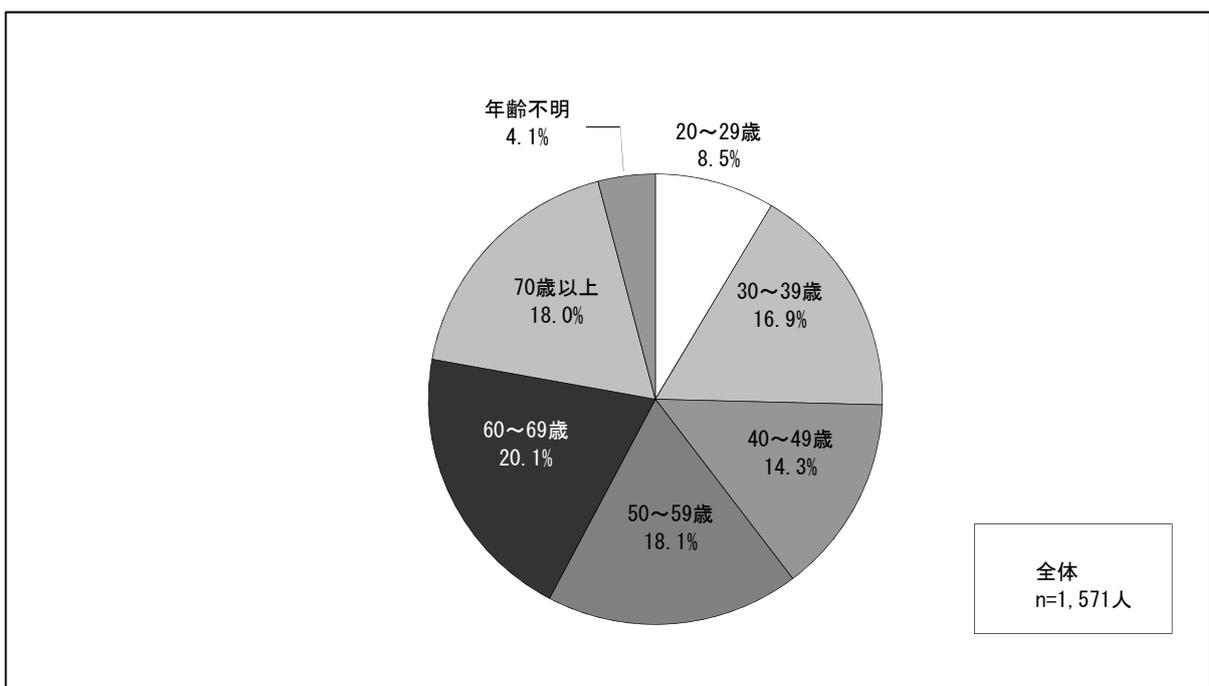
6 回答者の構成

(1) 性別



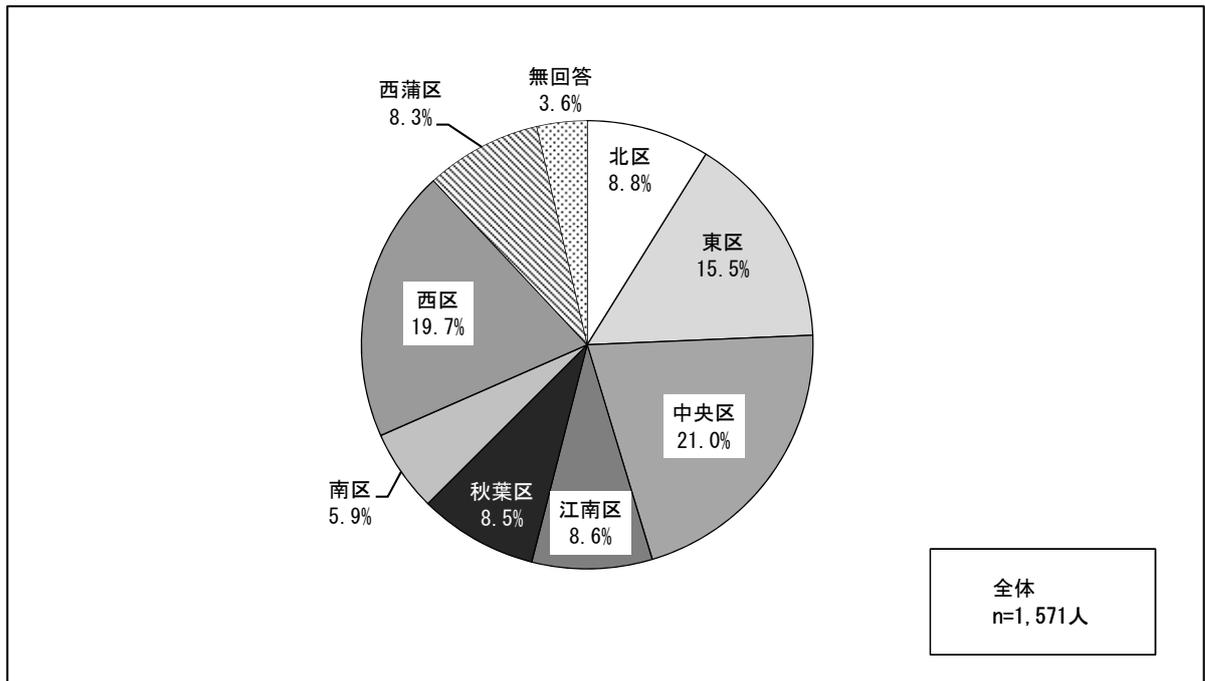
男性が40.2%に対し女性は56.1%と女性が多い。

(2) 年齢別



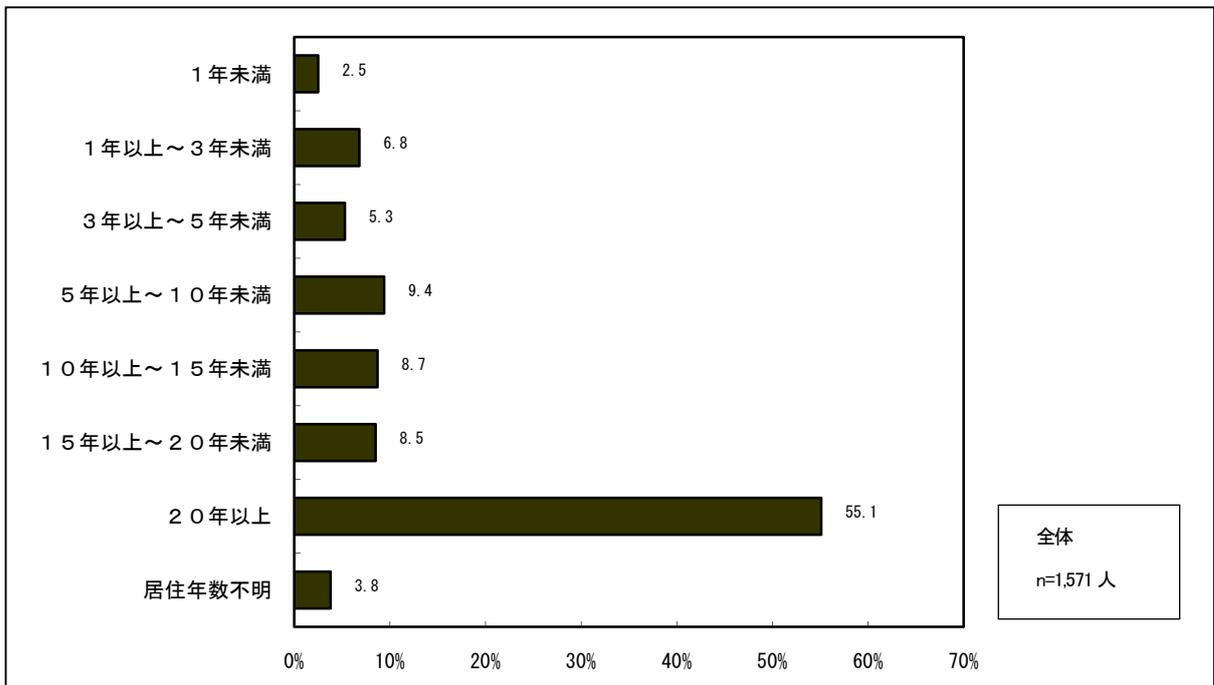
最も多いのは60~69歳 (20.1%)。最も少ないのは20~29歳 (8.5%)。

(3) 居住地区別



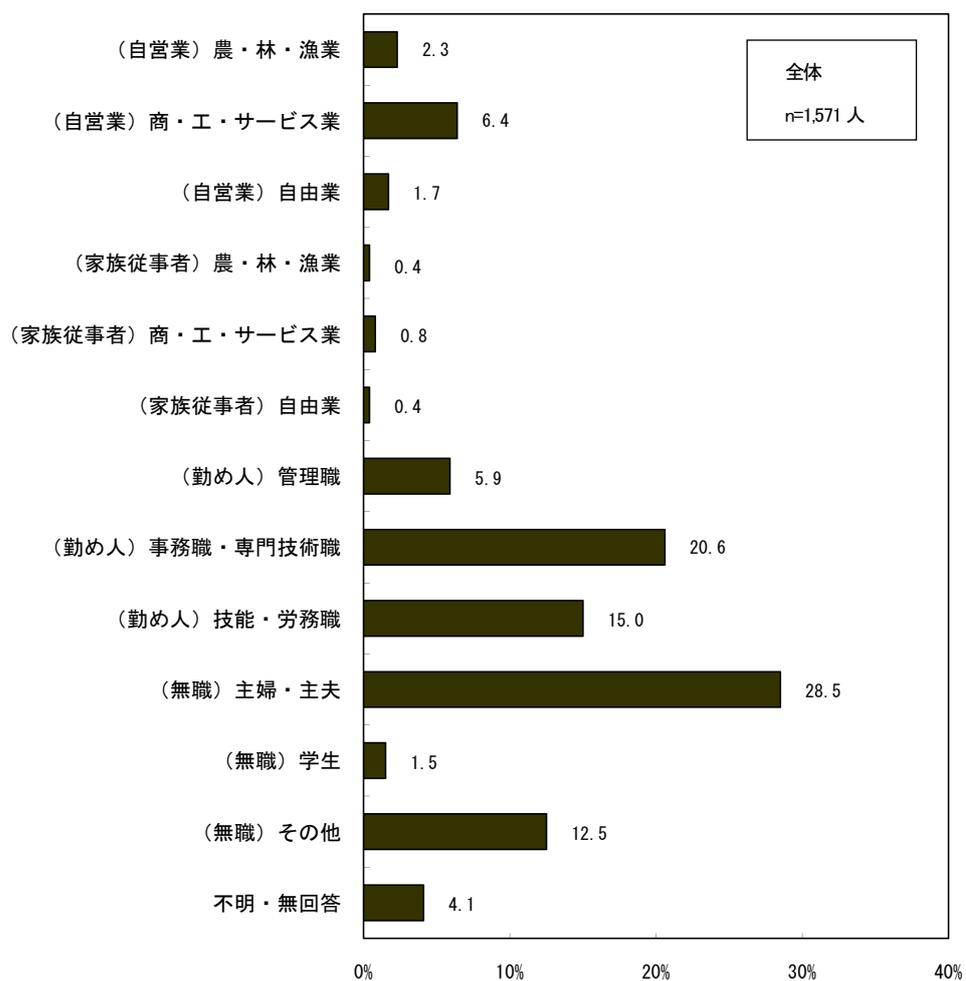
どの地区も母集団数に対する構成比とほぼ同じ割合であった。

(4) 居住年数別



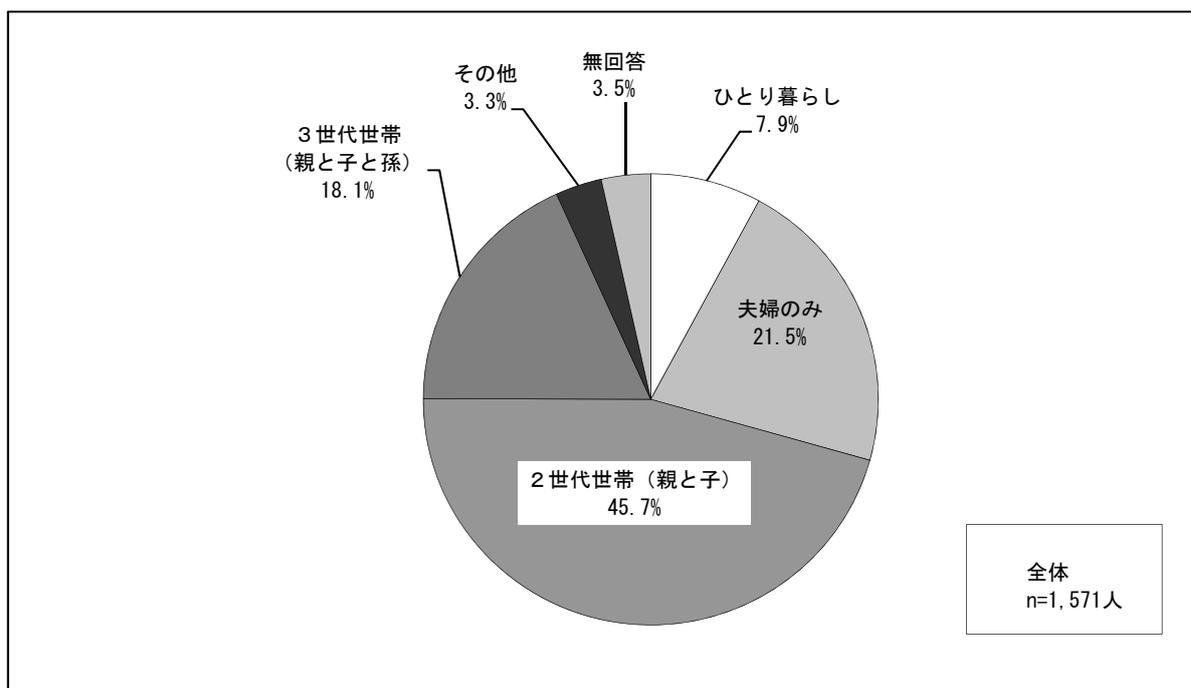
最も多いのは20年以上居住している人で半数以上を占める。

(5) 職業別



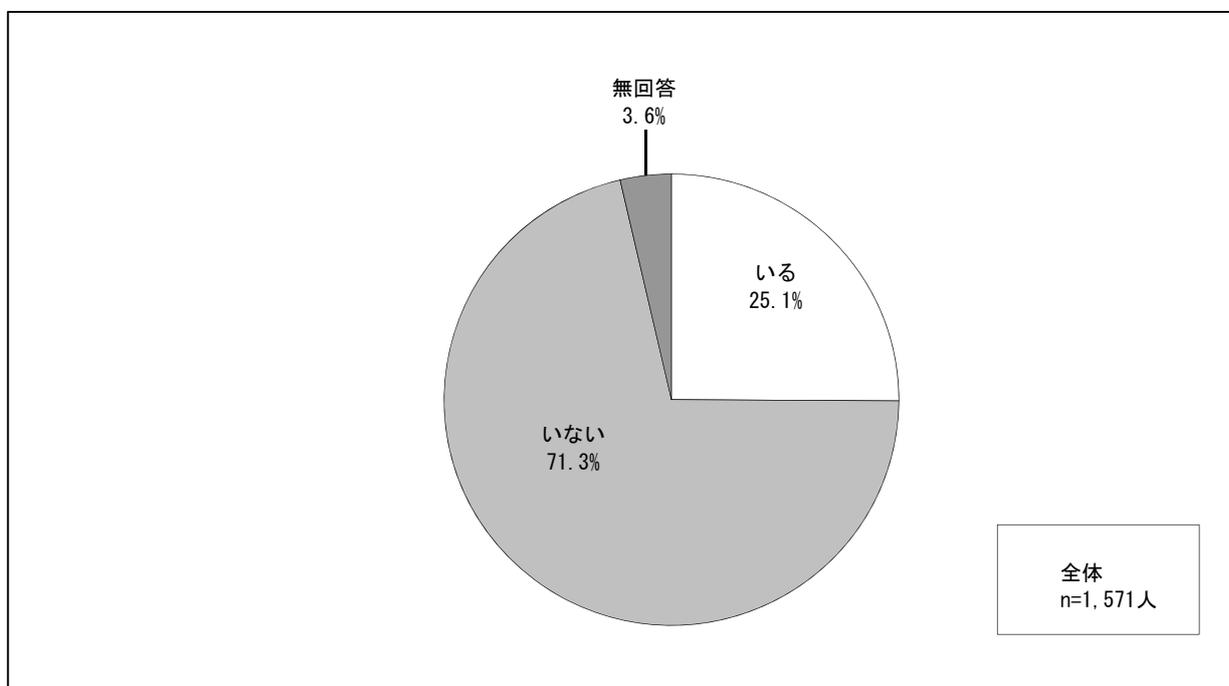
最も多いのは「主婦・主夫」で3割近くを占める。次に多いのは「事務職・専門技術職」で約2割を占める。

(6) 家族構成別



最も多いのは親と子の2世代世帯で半数近くを占める。

(7) 子ども (0歳~中学生) の有無別



中学生以下の子どもがいる人は、全体の約1/4。